

令和4年度千葉県総合教育会議 会議録

日時：令和5年3月15日（水）午後1時00分から午後2時06分まで

場所：千葉県庁本庁舎5階大会議室

1 開会

○鎌形総務部長

それでは、ただいまから、令和4年度千葉県総合教育会議を開会いたします。

私は、本日の司会を務めます総務部長の鎌形でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本会議は、公開での開催となっており、報道機関各社のほか、一般傍聴の方が御入場されておりますので、御了承願います。なお、井出教育長職務代理者から、欠席の御連絡を受けていますので、御報告いたします。

ここからは着座にて、失礼いたします。

それでは初めに、本会議の議長でございます熊谷知事から御挨拶を申し上げます。

2 知事挨拶

○熊谷知事

本日は年度末のお忙しい中、総合教育会議に御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

新年度予算、議会でも認めていただきましたけれども、昨年度の会議において、皆様方から頂いた御意見も踏まえて、関係課で検討を重ねて、事業として実現できたものもございます。改めて感謝を申し上げたいと思います。

我々知事部局と、そして教育の行政部分が、より連携をしなければならない。具体的には、福祉と教育の連携もそうですし、それから教育と経済、雇用の連携もそうですし、また、幼児教育と小・中・高のこうした部分の接続の部分など、まだまだできること、やらなければならないことがたくさんあると思っております。この間も大変質の高い議論をできたと思っておりますけれども、引き続き皆様と教育施策の方向性について共有をいたし、千葉県の子供たちにおいて、オール千葉県の形で支援ができるように取り組んでいきたいと思っておりますので、今日も忌憚のない御意見を頂戴できればと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

3 議事（1）令和3年度会議の協議結果に基づく取組の進捗を踏まえた意見交換

○鎌形総務部長

それでは、千葉県総合教育会議運営要領第3条の規定により、議事の進行を議長である熊谷知事をお願いいたします。

○熊谷知事

それでは、議事進行を務めさせていただきます。お手元の次第に沿って進めてまいります。

初めに議題の1、令和3年度会議の協議結果に基づく取組の進捗でありますけれども、これまで様々な御意見を頂きまして、関係各課において事業の検討などを行い、先ほど紹介したとおり、先日令和5年度に実施をしていく施策に必要な予算措置をさせていただいたところです。

まずは事務局から、子供の貧困対策、キャリア教育の推進、幼児教育の充実の取組の進捗について、説明をお願いします。

○根本学事課長

事務局の学事課でございます。

それでは、令和3年度会議の協議結果に基づく取組の進捗状況について御説明をいたします。

昨年度の会議では、大きく3つのテーマ、子供の貧困対策、キャリア教育の推進、幼児教育の充実について、議論をしていただいたところでございます。

まず、子供の貧困対策につきまして、資料の1を御覧ください。1ページ下段に記載のとおり、これまでの会議では、実態把握や受援力の養成、支援・相談体制の充実などの御意見がございました。

2ページを御覧ください。これまでの御意見を踏まえ、今年度は、ヤングケアラーの県内実態調査等を実施したところでございます。中段に調査結果の概要を記載してございますが、お世話をしている人が「いる」と答えたのは、小学6年生で14.6%、中学2年生が13.6%、高校2年生が10.5%と、国が行いました全国の実態調査と比べますと、

2倍の数値となっております。

また、そのうち、相談した経験が「ある」と答えたのは、それぞれ1割に満たない数値にとどまっております。

認知度の点では、「ヤングケアラー」という言葉を「聞いたことがない」、または「聞いたことがあるがよく知らない」を合わせますと、小・中・高でおよそ7割近くを占める結果となっております。

2ページから3ページには、今年度実施した取組を記載させていただいております。

4ページを御覧ください。令和5年度に実施を予定している事業を記載しております。令和5年度は、調査の結果や有識者からの御意見を参考に、(1)のヤングケアラー・コーディネーターの配置や、ピアサポート・オンラインサロンの設置、(2)のスクールカウンセラーの配置拡充など、支援体制の充実を図ってまいります。

このほか、(3)の困難な状況にある子供を早期に発見し、福祉的な支援につなげるため、学校内に気軽に相談できる居場所をつくる事業。いわゆる居場所カフェにつきましては、令和4年度の5校から令和5年度は10校に拡充をする予定でございます。

さらに、ページ下段の(5)から(7)に記載のとおり、教職員や児童生徒への周知と認知度の向上のため、研修会の充実や啓発資料の作成などを行ってまいります。

続きまして、キャリア教育の推進について御説明をいたします。

資料の2を御覧ください。1ページ下段から次のページにかけて、記載のとおり、これまでの会議におきましては、労働実態を踏まえた教育の見直しや、労働市場とのミスマッチに関する調査などについて、御意見を頂いたところでございます。

3ページを御覧ください。令和4年度は、職業理解の充実や自己理解に基づいた目的意識と社会で求められる力の育成のため、様々な事業を実践してまいりました。(1)の、ジョブカフェちば事業では、県立高校において、就職について考えるセミナーや、社会人として必要な知識、心構えを学ぶセミナーを開催するなど、高校のキャリア教育との連携に取り組みました。

5ページを御覧ください。資料の中段やや上から、令和5年度の新規・拡充の取組を記載しております。

これまで、様々な取組を行う一方で、県内高校卒業者の就職率低下や早期離職率の高さなどの原因が不明確であり、労働市場を踏まえたキャリア教育が十分に実施できていない懸念がございました。そこで、令和5年度は、新たに(1)のキャリア教育の推進等に係

る調査研究事業といたしまして、中高生、大学生、社会人、企業、それぞれ対象に、組織的な調査を実施し、子供たちの職業観や企業の雇用等に関する実態を把握し、結果の分析を踏まえて、各発達段階に応じた効果的なキャリア教育施策を検討してまいります。このほか、資料の記載のとおり、取組を進めてまいります。

次に、幼児教育の充実について御説明いたします。

資料の3を御覧ください。中段やや下に記載のとおり、これまでの会議におきましては、人間本来の生きる力や非認知能力の育成、自然保育に対する支援や、幼・保・小の連携などについて、御意見を頂戴したところでございます。

2ページを御覧ください。これらの御意見を踏まえまして、(1)の自然保育認証制度では、先進県や県内で既に自然保育に取り組んでいる幼稚園や保育所の視察、有識者や関係団体の代表者会などから成る検討会議を開催し、具体的な検討を行ってまいりました。

3ページを御覧ください。資料の中段やや上に記載のとおり、令和5年度は、新たに、(1)の自然保育推進事業に取り組んでまいります。これは、自然保育に取り組む幼稚園や保育所などを県が認証し、認証された園に対し、自然体験活動に要する費用の補助や、研修会の開催などを支援する制度になります。

このほか、幼・保・小の連携として、(2)の接続期のカリキュラム千葉県モデルプランの活用では、これまで作成し、研修などで活用してきたモデルプランについて、改めて研究協力園で実践し、分析を行いながら、更なる普及に努めてまいります。

また、その下の教職員の資質向上では、(3)の保育アドバイザー派遣事業として、遊びを通じて、数量や図形への関心・感覚の育成につながるような活動ができるよう、専門的な知見を有するアドバイザーを派遣します。

4ページを御覧ください。(4)の保育の質の充実に向けた調査事業では、県内における保育の状況等を調査・分析し、今後の保育の質の充実に向けた取組を検討してまいります。

以上で、事務局からの説明を終わります。

○熊谷知事

ありがとうございます。

それでは、意見交換に移らせていただきます。

先ほど事務局からお話をさせていただいたとおり、これまでの議論を踏まえて、新年度、様々な事業に挑戦をすることになりました。新規事業をこれだけ計上した予算というのは

10年ぶりということでもありますし、特に子育て・教育部分において、予算面も、それから新たな挑戦というので各事業盛り込ませていただきました。できる限りこれがうまく花開くように、皆様方の御意見を頂きながら、実践に入っていかなければならないと思っておりますので、これまでもこの3分野、御意見を頂いてきたところでもありますけれども、改めてこうした事業もしていく中で、皆様方の御意見ですとか、もしくは前回話し切れなかった部分も含めて、広く、忌憚のない御意見を頂ければと思っております。

それでは、御意見等ございましたら、御発言をお願いいたします。

それでは、永沢委員、お願いいたします。

○永沢委員

貧困対策について話します。食料品が値上がりしている中で、貧困家庭で食料品を買い控えることがあるのか。あるいは、ほかのところにお金がかけれなくなったりしていないかを心配しています。

フードロスの対策ということの観点からも、コミュニティフリッジ、公共冷蔵庫という取組が海外で始まって、日本でも広がりを見せているという記事を読みまして、埼玉県草加市にあるコミュニティフリッジ草加を紹介しようと思って、調べてまいりました。

埼玉県草加市の生鮮スーパーの一角に設置されていて、24時間利用が可能で、駐車場に併設していて、無人運営です。冷蔵庫があるので、冷凍食品やら生鮮食品も頂けるということです。利用できる人は、児童扶養手当や就学援助を受けている世帯です。受給証明書のコピーを提出して申し込んで、審査に通れば電子キーの使い方が知らされて利用可能になるということで、世帯の利用人数がとても多いらしいです。使いやすいということだ思うのですが、こういった取組が発展していくといいなと思いました。

もう1点、貧困対策で、これは実は千葉県でももう既に取組が始まっているようです。貧困はお金の問題だけでなく時間の問題でもあり、子供の話を聞くのが難しいみたいなことが一番問題ではないかと思っていて、その対策です。

シングルキッズ株式会社がシングルマザーの下宿、シェアハウスを運用しています。世田谷区上用賀にはMANAHOUSEという施設があります。ここの特徴としては、共同の食堂兼リビングがあって、平日はスタッフが夕飯を作ってくれます。お母さんが仕事から帰ってくると、食事の支度などしないで、子供たちと御飯を食べられる。気持ちの余裕が出ますし、もしお母さんが忙しいときはほかの大人も対応してくれるということで、

こういう取組が広がると、子供たちが伸びやかに過ごせそうだなと思いました。

今度千葉県市川市にそれがまたできるということで、県内各地に広がっていただけるといいなと思っています。

以上です。

○熊谷知事

永沢委員、ありがとうございます。コミュニティフリッジ、確かに冷蔵庫であればレトルトではなくて、冷凍や冷蔵のもの、生鮮も含めてということは、なるほどと思いましたので、草加市の事例、我々もしっかり学びたいと思っております。

我々は今回補正予算で、フードバンク、それから子ども食堂への支援を今回初めて行うことになったんですけれども、どういう形が一番この食の部分の支援として適切かというのは、今後も研究をしていきたいと思っています。

それから、シングルマザーのMANAHOUSEですか、これも市川市に今度オープンするというのを伺いましたので、こちらにも注目をしたいと思います。我が国は独り親の比率が非常に高い国でありますので、その部分、金銭的な支援がこの間進んでまいりましたけれども、時間面、心の余裕の部分のサポートを地域がどうできるかというのは、一つの観点だと思っておりますので、この点も教えていただきまして、ありがとうございます。

○永沢委員

よろしく申し上げます。

○熊谷知事

ほかに御意見ございましたら、お願いします。

岡本委員お願いします。

○岡本委員

まずもってお礼を申し上げたいと思います。といたしますのは、通常この種の審議会的なものだと、こう言っては何ですが、アリバイ的に意見を聞いて、自分たちでやりたい政策の箔をつけるというようなことが往々にしてありますが、今回知事からも、あるいは詳細につきましては学事課長からございましたように、きっちり私どもの意見を受け止めてい

ただ、しかも、予算化までしていただいたということに対して、非常にありがたく思っております。そういうことだと、我々委員も一生懸命考えようということになりますので、今後とも、よろしくお願いいたします。

中身の問題ですが、まず、子供の貧困対策については、非常に進んできたと思います。ただ、これは意識の問題かもしれませんが、例えば調査研究の中でも、「表面化しにくいが確実に存在するヤングケアラー」とか、あるいは「ヤングケアラーの認知度」といったように、何かマイナスのイメージとして、ヤングケアラーを捉えているような感じがしないでもありません。例えば、兄弟姉妹が5人も6人もいる時代には、むしろお兄ちゃんお姉ちゃんが弟・妹の面倒を見るというのは当たり前のことであって、何も問題になるようなことではなかったはずです。

従って、「ヤングケアラー＝貧困」ではなく、ヤングケアラー以外を原因とする貧困問題の解決が一つ。

もう一つは、貧困には結びつかないけれども、例えば勉強をする時間がなくなるとか、そういった理由で問題を生じるおそれのあるヤングケアラーへの対処です。

それら場面場面に応じて、貧困とヤングケアラーへの適切な対処をお願いしたいということが1点目でございます。

更に言うならば、貧困以前の問題として、例えば、テーマからそれるようで恐縮ですが、児童虐待の問題。これはやっぱり貧困以前の問題として、生命身体の安全の問題でございますので、これも是非貧困問題以上に取り組んでいただきたいなと思います。

この件に関しましては、児童相談所と警察の間での全件共有を前提とした情報システムを予算で認めていただいたと思いますが、せっかくのシステムですから、それを有効に活用して、全国的に見ても件数が多い千葉県から、この児童虐待を一掃するようにお願いしたいと思います。

それからもう1点、これは予算の増額で、SNS相談の充実、例えば、相談しやすい時間帯への変更等というのをやっていたいただいていると思いますが、私はよくシステム分らないですが、例えば、LINEならLINEのホームページでお友達申請しておけば、事後的に電話でいえば「コールバック」みたいな感じで自動的に連絡が取れるといったようなシステムもあるみたいですので、お金のかからないそのような工夫というものも是非お願いしたいと思います。

以上、2点よろしくお願いいたします。

○熊谷知事

岡本委員ありがとうございます。

おっしゃっていただいたとおり、ヤングケアラーはある種新たな名称でありますけれども、子供の貧困がそれ以外も含めて多様にありますので、しっかりとこの子供の貧困問題全体への意識というのは忘れずに持っていきたいと思っています。

それからあとは、家庭のお手伝いの部分とヤングケアラーとして本来問題視されるべき部分というのをしっかりとそこは我々も見極めながら、子供たちの可能性が、家庭の事情で阻害されないような環境をどうつくっていくのかしっかりと取り組んでいきたいと思っております。

それから、児童虐待の部分は、本当にこれは我々千葉県として、常に最重要課題として位置付けていかなければならない問題だと思っていますので、この点も、今回新しい組織強化をする形で新年度臨んでまいりますので、この点についても、学校とも非常に密接な、関わりのある分野ですので、しっかりと取り組んでいきたいと思っております。

それからSNSの部分は、おっしゃるとおりで、これはもう私もこの分野少しこだわりがありますけれども、どういうふうにインターフェースの部分も含めて工夫することで、相談をしやすい環境をつくれるかというところは、常に日進月歩だと思っていますので、この点御意見を参考にして受け止めていきたいと思っております。

いずれにしても、しっかりと、事業としても、一歩ずつ前に進めておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

○岡本委員

お願いします。

○熊谷知事

ほかに御意見ございましたら、お願いします。

貞廣委員、お願いします。

○貞廣委員

貞廣です。まずもって私も岡本委員と同様に、お礼を申し上げたいと思っております。しっか

りと予算化して事業化していただいていることに、ちゃんと発言して大丈夫なんだという安心感があります。

私は口が悪いものですから、授業の中で学生に建前の政策、本気の予算と言っているんですけども、やはり現場の努力、予算ゼロの努力のみに期すというものよりも、しっかりとそれを支えるリソースをつけていただけているところに改めて感謝申し上げたいと思います。

私は、幼児教育の充実と、今お話に出ていた子供の貧困の問題をめぐって、二つ合わさった領域のことについて意見を申し上げたいと思います。それは保育園や幼稚園などに通っていない未就園児や無園児と呼ばれる子供たちの実態把握と、更にその先の保健や福祉の分野、教育の分野と連携をしたアウトリーチを見据えていただきたいということでございます。

幼児教育の充実が最も教育の中でも効果が高い、コスパがいいということです。大学が一番コスパが低いそうですけれども、こういう知見が経済学で出されてから各国で非常に幼児教育の充実というのが行われています。特にこの10年ぐらいヨーロッパ諸国では、義務教育年限の前倒しがされているんです。フランスは3歳から義務教育なんですよ。

これ何でかというコスパがいいということよりも、やはり幼児教育の世界にこそ社会的、経済的な格差があって、ここのところから対応しないと社会的な公正が実現できないということがあるんだと思います。日本もそれは同じなわけです。

今、就学前教育が無償になっているんですけども、こども家庭庁の準備室にいらっしゃる可知さんという方の調査によりますと、未就園児、つまり保育所とか幼稚園に通っていない子供たちは、0から5歳児で言うと全国282万人、5歳児では1.3%の子供たちがこうした未就園児・無園児となっていると言われております。

もちろん積極的な選択によって、御家庭で保育や教育をしているということもあろうかと思いますが、同様の調査によりますと、経済的に余裕がない、気持ち的にも余裕がない。または医療的ケア児や障害児のために受入れを拒まれる。更に、親が外国人で入園手続きが分からない。多胎児がそろって入園するのは難しいなど、様々に、どちらかというとながティブな要因が指摘をされています。

やはりこの辺りを充実していくことが重要であろうかと思っておりますので、実際こども家庭庁、4月から立ち上がるわけで、そちらでも先進事例を集めていくということですが、是非千葉県においてもアウトリーチを見据えてこの点についても取り組んでいただき

たいということです。

もう1点、直接ではないんですけども、富塚教育長が教育長になられたときに「私一つお願いをしたんです」とおっしゃっていたのが、「とにかく子供の自殺をゼロにしてください」ということでした。私も教育長と全く同じ思いを持っております。

御承知のとおり、この数日報道されていますように、子供の自殺が過去で一番多かったということで、これはもう全庁挙げて子供たちの心のケア、貧困対策、もうとにかく命を絶つということがないように、是非知恵を絞っていきたいと思うところです。

以上でございます。

○熊谷知事

御意見ありがとうございます。この未就園児・無園児の部分は、私も市長時代少し関わりましたがありませんけれども、本当に実在、それなりに無視できない数が存在するというので、この部分はそれぞれのケースごとに市町村と連携もしながら、どのような対策が打てるのかということについては、しっかりと我々考えていきたいと思っています。

それから、子供の自殺の部分ですけども、本当にここは、子供の数がこれだけ減っているにも関わらず、この状況下というのは、我々にとっては無視できない、非常に重要な最重要課題だと思っていますので、この点についても、教育委員会の方とも連携をしながら、対策をしっかり打っていききたいと思います。

学校の部分、社会の部分、家庭の部分それぞれあろうかと思えますけれども、しっかり相談ができる体制をつくっていききたいと思いますので、改めてその点についても引き続き御意見頂ければと思います。ありがとうございます。

○貞廣委員

ありがとうございました。

○熊谷知事

ほかに御意見ございますでしょうか。

花岡委員、お願いします。

○花岡委員

知事がマスク外されているので、僕も外そうかなと思いますがよろしいですか。

○熊谷知事

そうですね。距離的に大丈夫だとは思いますが。

○花岡委員

やはりお話しさせていただくときは、顔全部見えた方がいいかなと改めて感じております。

私からは、幼児教育について、御意見させていただきたいなと思います。知事の肝煎りの自然保育が来年度から認定制度化されるということで、本当に前進しているなというふうに感じております。

自然保育のいいとこって何かあって僕もいろいろ考えるんですけども、やはり整備されていない不整地でまず遊ぶというところが、肉体・神経というところに、発育発達を促すということは非常に分かりやすいところだと思うんですが、その中でも自然の中で、大人が決めたことをやるのではなくて子供たちが自発的に発見したことに課題を感じて、それを解決していく。そういった子供たちが自分で見つけた、自分で気づいた、そして自分で学んだということが非常に大事だと思うんですけども、実はこれ幼児期だけ大事なわけではなくて、例えば大人になってからのキャリア論でも、計画的偶発性理論というものがあります。

自分自身で偶発的に気づきや学びを促していく。仕向けていくというような、計画性ということなんですけれども、スポーツコーチングにおいても似たようなことがあります。選手が自ら発見した、自ら気づいたかのように、選手にばれないようにこちらがコーチとして進めていくというようなことをやるんですけども、先日も貞廣先生の御厚意で、千葉大附属幼稚園と小学校を見せていただいて、幼稚園の方では、もう子供たちがかつての松林のある園庭で、まさに大きくはないんですが、自然の中で思い思いの遊びをしている。遊具も、簡単に子供たちがクリアできるものではないと、各々の発達に合わせて、発育に合わせて、そして体力に合わせて、性格に合わせて、自分でクリアする目標を決めて、トライしていくというそういう遊具が設置されていて、非常にこれいいなと。僕自身もこんな幼稚園で育って見たかったなと思うような園でした。

視察させていただいて本当に色とりどりの子がいるなあとあって、小学校に行ったんで

すけれども、たまたま僕が行ったとき運動場で体育の授業をしていたんです。そうするとやっぱり幼稚園とは違って、先生が前に立っていて、子供たちが行儀良く並んで、先生の方をちゃんと見ているという状態なんです。これ社会性であったりとか、決められたことをやるという部分では非常に重要なことだと思うんですけれども、せっかく幼稚園で色とりどりになった子たちを、小学校に上がった段階でそれぞれの特性の持っている可能性というものを狭めてないだろうかということを感じました。

非常にこれスキルの要ることだとは思いますが、小学校に上がっても中学校に上がっても、幼児期に経験した自分自身で興味を持ったことについて、自分自身でトライしていく。そして学びを得るといえるようなことができないだろうかということを考えています。

ですので、幼児教育の充実を図るのであれば、義務教育も変わらなければいけないというのが、今の私の考えであります。大きくやり方を変えるというのは非常に難しいと思うんですけれども、例えば体育の授業一つ取っても、自分自身で目標設定をできるであったりとか、周りの子と比較されないであったりとか、そういった環境の中に子供たちを置いてあげることが、非常に重要ではないかなと思いました。

恐らく、この先幼児教育が充実していくと、それぞれの特性が際立った多様な子たちが小学校に上がっていくと思うんです。その多様な子たちを受け入れるだけの教員の方のスキル。ただ学力を上げる、テストの点を上げるだけの授業ではなくて、コーチングに近いようなそういったアプローチを教員の方がしていただければ、幼・小・中・高と、大人になるまで、恐らく自分自身の人生を切り開いていくような、そういった自分自身の自発的な学びというものが、幼児期の教育から大人になるまで継続して行えるのではないかなということを感じております。

以上です。

○熊谷知事

花岡委員ありがとうございます。本当に自分で考えて判断していく、経験値の積み重ねというのは、本当に重要だと思うんですね。

私も10年以上行政に関わってくると、この間やってきたのは、できる限りリスクを減らすという。何か問題が世の中で起きると、そのリスクを減らすために、環境面から含めてリスクをなくしていく方向にどうしてもいってしまいますので、世の中はどんどんクリ

アリングされた世界が広がっているのかなと思います。

附属の幼稚園なんかも、クリアリングされていないような空間を、あえてもちろんそのリスクはしっかり減らしているんですけども、あえてその見えない場所、見通せない場所をつくるのが一つの想像力であったり、そこに対するアプローチを意識させるということだろうなと思っていますので、この辺りは我々も常に安全性を高めるといふのと、一方でそのことによる、違うものの可能性が失われないようにしなければいけないというのは重要だなと思うんです。

私、あるときセーフティーウォッチャーをされている方々と話し合ったときに、まさに警察出身のOBの方もいらっしゃる組織だったんですけども、週に1日はセーフティーウォッチャーを立たない日をつくっているというふうに言われて、それ何ですかと言うと、もう毎日立っていたら、もう自分でリスク考えられない子になっちゃうでしょうということで、もちろん活動が大変だっているのもあるんですけども、あえて1日はセーフティーウォッチャーを立たない日をつくっていますと。そうしないと、ちょっと大丈夫かなと思うときがあるものですから、みたいな話をされて。

これって結構でも勇気は要すると思うんですね。そのときにじゃあ事故が起きた場合みたいな。そこはどういうふうに飲み込んでいくのかというのは、社会の覚悟も試されているのかなとは思いますが、その辺りを見えないところでは一生懸命減らしているけれども、ちゃんと自分で考えなきゃいけないと思われるようなフィールドをしっかりと用意していくということは、我々常に考えなきゃいけないのかなと思いました。改めて受け止めさせていただきます。ありがとうございます。

○花岡委員

ありがとうございます。

○熊谷知事

それでは、それぞれの分野について御意見を頂きまして、ありがとうございます。

富塚教育長。

○富塚教育長

聞き取りづらいと思うんですけども、花粉症でせきが出まして、マスクをしたまま大

変更し訳ありません。

初めに、ヤングケアラーについてなんですけれども、まず、一つ目として、今年児童家庭課が主体となって、ヤングケアラーの実態調査研究を実施したことが大きな成果であると思っております。この調査、本当に苦勞されたと思うので児童家庭課の皆さん、お疲れさまでした。

この調査結果の中で、先ほどもございましたが、小・中・高ともに約7割弱の子供たちは、ヤングケアラーという言葉を知らない、もしくは聞いたことはあるけれども、よく分からないということでしたので、子供たちについては、まだまだ認知度を上げていかなければならないということと、それから、おかげさまでこの一、二年で、教員の間ではこのヤングケアラーという言葉はもう浸透していると思います。

ただ、この調査結果の学校調査のアンケート調査の中で、校内にヤングケアラーと思われる子供がいるかどうか分からないとの回答が約2割から3割。そして、その理由として、教職員が家庭内の事情やプライバシーに立ち入ることの困難さであるとか、子供自身、あるいは家族の方がヤングケアラーについての認識がまだ低いということなどがございました。

そして、ヤングケアラーと思われる子供が校内にいても、外部の支援にはつないでいないという回答も4割ぐらいありましたので、次の取組としましては、まず、一つ目は引き続き児童生徒への認知度の向上ということで、今年度から、様々な子供向けの資料についても、ヤングケアラーをしっかりと取り入れて、そしてまた子供自身がSOSを発信する。

先ほど、貞廣委員のお話、以前のこの会議でも貞廣委員から受援力という言葉がございましたけれども、やはり助けを求める力であるとか、SOSを出すというところ。そしてそれを誰に出したらいいのかという、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーもいるので、そういった方を、そういう大人を頼っていいですよということを、今回子供向けのリーフレット等に新たに加えました。

そして、来年度からは更に加えて、来年度の取組として一つ目は、まず4月早々に予定しているのですが、中核地域生活支援センターの会長さんに講演をお願いしようと思っております。ヤングケアラーに特化した講演を人権教育担当者の研修の中でやっていただくということと、それからもう一つは、学校で主にいじめの早期発見ということの主目的として、教育相談アンケートというのをやっております。

いじめの認知件数等の調査の中でも、いじめが分かったきっかけとして、非常にこのア

ンケートで分かったということが多く上げられているので、困り感を把握する有効なツールであると思いますが、このアンケートの中に初めてヤングケアラーの項目を入れて、例えば、「家族のお世話に時間がかかって自分の時間が取れないことがありますか」というようなことを入れていこうかなと思っております。引き続き児童家庭課と連携をしながら、取組を進めてまいりたいと思います。

また、キャリア教育につきましても、商工労働部、ジョブカフェですとか様々な関係機関において、高校生向け、あるいは、教員、進路指導担当の教員向けの様々な啓発等を行ってくださっていただいている、非常にありがたく思っております。

先月なんですが、高校の進路指導部会の先生方に、研究協議会の中で、ジョブカフェちばのキャリアカウンセラーの方に御講演をいただきました。その中では、このキャリアカウンセラーの方が、実際に離職をした若者の就労支援に関わった事例からお話いただき、一つには、まずは就職する前に企業のことをよく調べましょうねということと、もう一つは就職してからの職場でのコミュニケーション能力とか、人間関係形成力を養っておきましょうねということで、その内容自体は多分教職員にもその辺のことは理解が進んでいることだとは思いますが、やはり実際に離職した若者の支援に当たっている方の生の話を聞いたということは、非常に意義のあることかと思えます。

こういった商工労働部及び関係機関との連携については、一層充実をさせてまいりたいというのと、教育委員会主体となって来年行うキャリア教育に関する実態調査につきましては、意味のある調査となるよう、知事の御指導を受けながら、しっかりと進めてまいります。

あと、幼児教育については、おかげさまで、幼児教育アドバイザーの派遣の数が非常に大きく増加いたしました。学事課さんはじめ、関係者の皆様の御協力に感謝申し上げます。引き続き、幼児教育について、私立の幼稚園・保育所を含めまして、連携を進めてまいりたいと思います。

長くなってすみません。

○熊谷知事

富塚教育長、ありがとうございます。本当に学校、中核地域生活支援センター、スクールソーシャルワーカー、市町村、福祉部門、この辺りの連携をしっかりと取って、今まで以上に更に深めて、子供たちのSOSをしっかりと気づける体制をつくっていきたいと思っ

ています。

3 議事（2）リカレント教育の推進について

○熊谷知事

それでは、次に議事の2、リカレント教育の推進について、移らせていただきたいと思っております。

この辺り、もう最近政府の方はリスクリングとかいろいろな言葉が出てきておりますけれども、とにかく大学までで学んだことがなかなか10年20年たつと社会としての求められるスキルであったり、知識が変わっていくという部分で、リカレント教育の重要性はますます増していると思っております。

これは我々の社会を見ても、そのとき必要とする人材が必要な量を供給されるということも大事ですし、また、それぞれの個人という点で見ても、求められる能力を持つことによって、雇用環境の安定も含めた、そうした個人としての生活の基盤が整うという意味においても、どちらの観点からも大事だと思っております。

現在そういった課題を踏まえた上で、我々千葉県として新たな生涯学習の推進計画の策定を進めております。現在の取組ですとか検討している事業について、事務局から説明をお願いいたします。

○富田教育総務課長

教育総務課でございます。

それでは、リカレント教育の推進につきまして、御説明させていただきます。資料の4を御覧ください。

現在の取組として、生涯学習課では、新たな生涯学習推進方針の策定を進めており、この方針では、学びの成果を生かした社会での活躍を推進することとしています。

生涯学習推進方針の概要については、参考資料にお示ししておりでございます。課題としては、学び直しの動機付けや、学習相談体制の整備及び産・学・官の連携体制の構築の必要性を挙げております。令和5年度の取組としては、趣味・教養のほか、職業につながる学習の情報を加えた幅広い情報を収集、整理してまいります。令和6年度には、これらの学習情報を基に、学習者に適した学びを案内する「学びの総合窓口」の開設を予定しております。

また、産業人材としての学び直しの動機付けとなる講座を実施するほか、県内企業を対象とし、教育ニーズや学び直しへの支援状況等を調査するとともに、産・学・官により組織される協議会を設立し、今後の推進の在り方、取組を協議してまいりたいと考えております。

なお、これらの事業実施に当たっては、商工労働部とも十分に協議をした上で進めていきたいと考えております。

以上でございます。

○熊谷知事

説明ありがとうございます。

それでは、意見交換に移らせていただきます。御意見等ございましたら、御発言をお願いいたします。

花岡委員、お願いいたします。

○花岡委員

逆回りでいかせていただきます。リカレント教育、本当僕もテレビで政治家さんたちが「リスクリング」というようなところをおっしゃっていて、それに対して、やはり経済的に苦しい方々からはあまりいい声が上がってこないというのを見ていて、これはこのままいくと日本の経済って本当に停滞していくのかなということを危惧しております。

リカレント教育が経済効果につながるというのはあるとは思っているんですけども、やはり受講者が本気でやるかどうかということが非常に重要なことだと思っております。

キャリア教育もそうなんですけれども、ただ働いて給料がもらえればいいというわけではなく、やはり何のために自分が働くのか、どんな役割が社会で自分自身にはあるのかということを理解した上でスキルを上げていくというのが非常に重要なことだと思っております。

就労を保障するという意味で、行政が無料で講座を提供するというのは、一つありだとは思っているんですけども、もう一方で、受講者の本気度をはかるわけではないんですけども、例えば受益者負担があれば、具体的には例えば半年間で50万の講座を受けたら、次の年からの年収20万上がりますよって言ったら僕でも行くなと思うんですよね。

そういった、少し生臭いかもしれないですけども、実際に自分自身で責任を持って対価を払ったものに対して、企業なりが責任を持って、更にお給料を増やしていくというよ

うなそういった仕組みがないと、なかなかお給料アップにはつながらない。お給料が増えないと経済が回らないので、企業が給料を増やしたいって思うようなスキルをどれだけ受講者の方が実際に身につけられるか、本気で取り組めるかというところが非常に大事ななと感じております。

あと、ちまたでよく言われていますA Iによって失業者が増えるかどうかというところですが、ちょっと現代の怪談みたいなものなんだと思うんですけれども、いろいろ調べても、すぐに失業者が増えるわけではないというのが大方の見方ですし、今朝ちょっとふと思いついて、C h a t G P Tにも聞いてみたんです。

「A Iの導入で失業者は増えますか」って聞いたら、やはりネットの情報から引っ張ってきますから、いろんな研究とあまり変わらない結果が得られたんですが、ただ、A Iが入ることで効率化されると。仕事が効率化されるということは当然そこに要らなくなる人も出てくるというような見解は示していましたので、先ほどの繰り返しにはなりませんけれども、人間がA Iと違って優位性があるって言ったら、もう仕事に対する情熱とか、そういった部分だと思うんですよね。

最近のビジネスでは、感情は判断の邪魔だから捨てるみたいな話もありますけれども、そうではなくて人間だけが持っているA Iと比べたときの優位性。感情というものをどう仕事に生かせるのかということも含めて、リカレント教育につながっていければいいのかなというふうなことを考えております。

以上であります。

○熊谷知事

花岡委員、ありがとうございます。確かに学び直しによって、具体的にどうなったかというのをしっかり分かりやすく行政が説明できてないというのは確かだと思うんです。よく転職の広告等では、もう明確に例えば何百万から何百万になったみたいなものがあるんですけれども、行政というのは、得てしてこういう直接的な表現を避ける傾向にありますので、学び直しによって、より良い就職転職。この「より良い」というのは、給料もあると思いますし、花岡委員がおっしゃったようにやりがいの部分もあろうかと思っておりますけれども、その辺りをどういうふうにその学び直しのインセンティブを、伝わる形で、構築し見せていけるかというのは一つのキーワードなのかなと思っています。

この間、行政的な部分でのリスクリソングなのか。もしくはリカレント教育なのかという

のは充実をしてきていますけれども、まだまだ社会の認識そのものは、企業で教育を受けるといところから大きくはなかなか転換しきれていないと思います。せつかく人手不足の社会ですから、本当に必要とされるスキルを身につけた場合に、転職が本当に容易になっている。これは本当に私自身も20年前と比べて大きく変わっている実感が持てるんですけれども、そういったところをしっかりと御意見も踏まえて、我々として意識をしてまいりたいと思っております。御意見ありがとうございます。

ほかに御意見ございますでしょうか。

貞廣委員、お願いいたします。

○貞廣委員

意見というか、難しいですねというような意見にもならない意見になるかもしれませんけれども、リカレント教育、最近では狭い意味でリスキリングというのか分かりませんが、日本でもとても定着しにくい実態があります。

「lifelong education」とか「lifelong learning」は、1960年代にポール・ラングランという方が国連総会でおっしゃったんですけれども、つまり60年もかかっても、趣味の学びしか定着していないということなんですよ。

恐らく日本の選抜ふるい分けのシステムにも、その理由があると思います。いわゆるトーナメント移動といわれ、1回負けちゃうと、もう二度と試合ができない、1回負けると敗者復活はないというような選抜ふるい分けを長らくしてきて、我々それが内面化されているので、学び直していいことがあるという確信がないんだと思うんですよ。

こうした構造的に根深い課題をどう変えていくかというところが基本なので、これを政策的に、それも千葉県という一つの県の政策でどこまでできるかというところは、とても難しいことだと思えます。

ただ、その一方で、もう今すぐにでも再教育を受けて、全ての人が自己実現が可能な働き手になり、働きがいを持って社会にも貢献できる様になるということを考えると、やはり何らかの形を考えていかなければいけないと思います。

特に、我が国の場合は大変大学進学率が高いわけで、千葉県もその例外ではありませんので、生涯学習と言ったときに、今日お見せいただいている参考資料では、全ての年齢層のことを想定して書いてくださっていますけれども、どちらかという、少なくとも後期中等教育、高等学校を卒業、または特に大学を卒業しながら、なかなか思ったような職で

活躍できていない方々というのが一つのメインターゲットになるのかなと思っています。

例えば、就職氷河期を迎えて職に就いた方々というのは、非正規の職に就いているパーセンテージが高くて、今とにかく皆さんとても努力してくださっていますけれども、今後更に年齢が高くなっていくと、これらの方々を社会でいかに支援していくかというところに立たされる可能性もあります。この方々がちゃんと学びがいを感じて学び直し、働きがいを得るような職業に結びつけていくということが大切なんだと思います。

となったときに、最初の一步が結構難しいと思うんですよ。何を学んでいいのか分からない、学んでもどこの企業につながるか分からない、学ぶときに働きに行けないのでそのお金はない。じゃあどうしたらいいんだというのがあるので、最初のハードルだけでもちょっと下げて差し上げられないかと思うんです。

例としてということで、東京都さんが、昨年、一昨年、もうちょっと前ですかね。東京都さんが提供しているその学び直しのプログラムに参加した人に、日当を出しているんですよ。5,000円の日当を出して学んで企業に接続させると。ずっとその日当がもちろん出るわけじゃないんだけど、最初に学び直してできるんだな、やってもいいんだな、そしたらこういう仕事に結びつくんだなという体感を得ていただくという狙いだと思いますが、そうした取組も、もしかしたら初めの一步としてはあるかもしれません。

いずれにしても、非常にこれは政策の中でも大変足の長いタイプの政策ですので、そうじゃないものについては事業評価をして、EBPMで検証し、成果が出なかったら撤退をするというそういうやり方もあると思うんですけども、これは少し、知事はもちろんそういうふうにお考えだと思いますが、かなり長い目で見ていただいて、種まきをして育てていくぐらいの感覚を持って、そういう時間軸で是非進めていただきたいと思うところです。

何か意見なんだか愚痴なんだかというような感じになりました。申し訳ありません。以上でございます。

○熊谷知事

貞廣委員、ありがとうございます。私もこれ、ずっともう市長時代から関わってきましたけれども、本当にここの部分の難しさ、実感をしておりますので、その中でも頂いた、ターゲットをある程度メインとなる部分を意識していくということと、それからやはりまずは第一歩を踏みやすくするような東京都の事例も御紹介していただきましたけれども、

そういうことも含めて、やれることをいろいろやってみて、ここだなというところにしつかり重点的に息長く取り組んでいくということが必要だと思っています。

それから、あとは出口の部分ですよね。これをやれば、ちゃんとこの辺の企業にこれぐらいの待遇で就職できるというところの出口もセットで、入口の部分と出口の部分を意識してというのは、これはもう全くそのとおりだと思っていますので、この行政として、いろいろな制約を私もこれまで実感をしてきて、例えば、必ずしもその企業に行けるわけじゃないから、何か表現としてこれは言い過ぎじゃないかとか、いろいろこう出てしまうんですけれども、少し意識しながら、この部分取り組んでいきたいと思っています。御意見ありがとうございます。

ほかに御意見ございますでしょうか。

それでは、永沢委員、お願いします。

○永沢委員

私の話すことは、リスキリングとか、リカレント教育と今世の中で言われているものとは全く違う論点かと思いますが、話します。学び直すといいということに、ITとかAIとか英語というふうに書いてあったりして、それが負担じゃなく、仕事のために役に立つと思ってやる方はそれをやっていただくといいのかなと思います。しかし外来で、小児科なので子供の親御さんとお話ししていると、働いていらっしゃるお父様がお疲れになっている様子で、自分の周りにも疲れている人が多いとか、あまり幸せな人がいないというふうにおっしゃいます。日本の幸福度ランキングがすごく低いこととかも含めて、こういった学び直したいな議論で取り残されてしまう人たち、しんどく思っている人たちというのもあるのかなと心配しています。学び直している方の中にも疲れている人がいるのかなと推測するわけです。

幸せになるために学ぶということを考えてみますと、外来でお子さんたちに指導することもあり、その親御さんも整ってないと思うので、睡眠や栄養についての学び直しの機会はあるといいのかなと思います。あと先ほど離職の話がありましたけれども、対人関係で悩む方というのはすごく多くて、そこの学びということで、改めてコミュニケーション、ハラスメント、人権、差別、いじめについて大人になってからも学ぶ機会があるといいのかなと思いました。

以上です。

○熊谷知事

ありがとうございます。確かに世代によっては、そういう部分は、確かにもう学ぶ機会がないままいってしまうというところは、なきにしもあらずだと思っています。これは仕事をする上でも、地域社会に溶け込むという意味でも、コミュニケーションの部分とか、確かにおっしゃることはもつともだなとも思います。直接的なスキルだけじゃない、社会で生きていく上で、どこか学校以外ではなかなか学ぶ機会がないような部分を、どういふふうに生涯学習の中で取り組んでいけるかというのは、一つの指針として承りたいと思います。ありがとうございます。

○永沢委員

ありがとうございます。

○熊谷知事

ほかに御意見ございますでしょうか。

岡本委員、お願いします。

○岡本委員

ありがとうございます。困りました、というのは、実は今日この場に来るまで、ここ3週間ぐらいリカレント教育はどうあるべきかというのをいろいろ考えてきたんですけども、皆さんの意見聞いて、ちょっと私の考えというのはきれいごと過ぎたのかなという反省も含めて意見させてもらいたいんですけども、きれいごと過ぎたというのは、リカレント教育というのは、リスキリング等々と違って、例えば就職のためとか、花岡委員の言われたようなより良いサラリーのためとかそういうことじゃなくて、最終的にはそういう利他的なものじゃなくて利己的な自己実現のための学び直しと。

いや待てよと。それは教育の目的そのものじゃないかと。ちょっとキャリア教育とは反するかもしれないんですけども、何のために勉強するかというと、良い職業に就くためでもない、いい大学に行くためでもない。幸せな人生。ここに書いてあるように、一人一人の心豊かな人生を実践するための学び。これが本当の学びじゃないかなと。

それが学校教育における学びでも、あるいは社会における学びでも、あるいはリタイア

した後の学びでも、全てに共通する学びの目的なのかなとこういうことを考えていたわけなんですけれども、皆さんの意見を聞くと、やはりそれはきれいごと過ぎんのかなとということで、今考えているのは、千葉県におけるリカレント教育の目的をしっかりと定めて、一つはより良い職業に就くための教育。あるいは一つは地域社会に貢献できるようなための教育と。その双方を通じて、より良い人生を送るようなことができる教育というような形で、定義のし直しとか考え直してもいいのかなと。そのためには、やはり画一的なものじゃなくて、カフェテリア方式ではないですけども、この「学びの総合窓口」を通じて、いろんなものが学べるというのが一つと。

それから、先ほど附属幼稚園と附属小学校の差異じゃないですけども、附属小学校のようなスズメの学校。むちを振り振りちいばっばというよりも、幼稚園のような、誰が生徒か先生か分からないようなメダカの学校方式ということ、是非やっていけたらなというふうに思います。

その上で、県としては何やったらいいのか。市町村としては何やったらいいのか。あるいは企業として何をやったらいいのかと。こういう分担をすると同時に、最終的には、せっかくお金を使うわけですから、フィードバックを通じた好循環というのを是非お願いしたいなと思います。

それから、先ほどのキャリア教育のところ、そう思ったんですけども、やはり私ども企業としては、もちろん実践的なキャリア教育を受けていただいたお子さん方、生徒さん。これも必要なんですけども、実はそれ以上にリベラルアーツ。あるいは、部活といったような本来学校でやるべき、学ぶべきものを受けてきたお子さん。こちらの方が非常に企業に入ってから伸びるということもありますので、その辺りも、学び直しの方の視点も加えていただいて、本当に難しい問題だとは思いますが、事務方の皆さんで知恵を絞って、千葉県独自のリスキリングと、リカレント教育というのを是非実行していただけたらなと思います。

以上です。

○熊谷知事

岡本委員、ありがとうございます。本当にリベラルアーツ、哲学・教養の部分かもしれませんが、そういったところも含めて私たちの社会として、最後はそういう部分が生きていく上の大きな土台、柱になっているケースがたくさんありますので、そういう意

味で、スキル。僕らはリスクリングではなくリカレント教育という形で位置付けておりますので、そういう観点から、生涯学習の部分の充実を確かに図っていききたいなと思っています。

富塚さんには以前お話ししたんですけれども、ある学校法人の理事長さんとお話をしたときに、将来どんな家に暮らしたいかというのを設計させるんだそうなんです。そうすると、自分の夢みたいな、こういうふうな生活を30代、40代でしたいみたいな形で家ができてくると。そうすると、その家は一体幾ら造るのにかかるのかというと、途端に今までピンとこなかった金額が生々しく見えてきて、こういう生活をするためにその仕事をします。そのためにはどういう仕事に就かなければいけないのか。そうすると幾らもらえる仕事なのかみたいに初めてつながってくるみたいな話をして、なかなか生活のイメージというか、実感を伴う、豊かにどう生活するためにどう仕事というのがあるのかを含めて、うまく僕らとしては見せていければいいなとは感じていますので、頂いた御意見も踏まえて、我々の中でもう一度考えていききたいなと思います。

○岡本委員

よろしくをお願いします。

○熊谷知事

御意見ありがとうございます。

それから、富塚教育長、よろしくをお願いします。

○富塚教育長

先ほどのお話の中で、日本はリカレント教育というものがなかなか難しい、なじまないというか、そういうことが先ほどどなたかおっしゃっていたと思うんですけれども、先日雑誌を読んでいた中で、諸外国とリカレント教育。あるいは生涯学習に関するそのアプローチの仕方が違うと。

日本は、生涯学習というと教育の分野で語られるけれども、例えばヨーロッパ、北欧とかでは、産業政策として、あるいはその社会保障ということで、先ほどもありましたが、例えば離職して、転職しようというときに、社会保障がしっかりしていて、その間の保障があれば、離職も躊躇なくできるかもしれないし、学び直すきっかけになるかもしれ

ない。そのところが、生涯学習というと、今までのイメージでは、公民館の趣味の講座みたいな、社会教育という教育のアプローチの部分が強く、そういうふうに取り組みられてきたのかなと思います。

今回、教育委員会の方で、今策定をしている新しい本県の生涯学習の推進の方針の中では、目標としましては、社会とつながる生涯学習。いつでもどこでも誰でも学ぶことができ、その成果を生かして活躍できる生涯学習社会の実現ということを目指していこうと思っておりますので、もちろん地域貢献であるとかボランティアであるとか、生きがいという部分ももちろん大切にしつつ、社会の中のつながり。社会に貢献し、そしてそのなりわいとして、自らの経済的な部分含めて、幸福を追求していくというところに、どんなふうにも果たして県として、そして教育委員会としてアプローチできるのかというのは、実はまだまだ悩んでいるところでございますが、まずは先ほどからありますように、「学びの総合窓口」ということで、多様な学びの機会の情報をしっかり提供しましょうと。

そのためには、今までの市町村の社会教育の分野との連携だけではなくて、産業機関であるとか、それから民間の人材育成機関。企業を含めて、幅広い連携が必要だと思っておりますので、今後そういったところは様々な労働界ですとか、経済界ですとか、有識者の方々からの意見も聞きながら、組み立てていきたいと思っております。

○熊谷知事

富塚教育長、ありがとうございます。本当に富塚教育長や、また、教育委員会の各部署の皆さん方の取組で、商工労働部などとのつながりというのは、大分今まで以上に充実してきていると思っておりますので、少しでもその距離を縮めて、意味のある取組、1個でも増やしていければなと思っております。ありがとうございます。

3 議事（3）その他

○熊谷知事

次に、議事3のその他でありますけれども、委員の皆様から何かございますでしょうか。よろしゅうございますか。

それでは、今回もいろいろ非常に活発な御意見を頂戴いたしまして、ありがとうございます。しっかりそれを踏まえまして、政策であったり政策の実施に取り組んでいきたいと思っております。

それでは、議事を終了いたします。

司会に戻します。

4 閉会

○鎌形総務部長

委員の皆様からは、貴重な御意見、そして貴重な御議論を大変ありがとうございました。

本日頂きました御意見も踏まえまして、今後の取組について、検討を進めてまいりたいと存じます。

それでは、以上をもちまして、令和4年度千葉県総合教育会議を終了いたします。御苦勞さまでした。

— 了 —